

2022.6.30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：7月5日（火）11:00～11:20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：6組

《6月のおはなし会で使った本》

『どうぶつしんちょうそくてい』 聞かせ屋。けいたろう/文 高島純/絵 アリス館 2016.11

『はみがきごうがしゅっしゅっしゅっ!』 山本省三/作・絵 教育画劇 2014.1

『いろいろバス』 tupera tupera/さく 大日本図書 2021.1

『うまれたよ!ホタル』 中瀬潤/写真・文 岩崎書店 2016.3

『むし』 新開孝/写真 ポプラ社 2012.7

★「第2回新刊児童書閲覧会」

○日時：令和4年7月20日（水）～7月24日（日）9:00～17:00

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室（こどもとしょじつ 3F）

○対象：市町立図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア関係者、子どもの本に関心のある方

○定員：一人1時間、各時間帯10名程度（要申込み）

○申込方法：FAXまたは電子メール（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター

（電話：083-924-2111 FAX:083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『ころころすくすく』 吉田敦子/作 飯塚好/絵 パインターナショナル 2022.5 ¥1200

家族に見守られて生まれてきた赤ちゃん。ねがえり、はいはい、立てるようになるまでの赤ちゃんの気持ちと家族の様子を描く。助産師でもある著者が、赤ちゃんの成長に沿ったかたちで赤ちゃんが喜ぶ気持ちのいい抱っこの仕方を紹介。うら見返しには、「赤ちゃんが喜ぶだっことお世話のしかた」を掲載。赤ちゃんを迎えるお母さんはもちろん保育を学ぶ人にもおすすめの一冊。

『おなおしやのミケばあちゃん』 尾崎玄一郎/作 尾崎由紀奈/作 偕成社 2022.5 ¥1400

駄菓子屋「はるきや」には人間のはるばあさんと猫のミケばあちゃんが住んでいる。ミケばあちゃんは床下で壊れたおもちゃを直す「おなおしや」をしている。ある日駄菓子屋をやめるつもりだというはるばあさんの思いを聞き落ち込むミケばあちゃん。やつこだこがよい作戦を思いつき…。古きよき昭和の時代を彷彿とさせる色づかい。隅々まで描きこまれたノスタルジックな絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ピヤキのママ』 ペクヒナ/作 長谷川義史/訳 ブロンズ新社 2022.5 ¥1500

ニャンイというふだつきの猫がいた。ニャンイの大好きはうまれたてのまだあたたかいたまご。ある日ニャンイは鳥小屋の前を通りかかりうまそうなたまごを見つけ、ぱくりと飲み込んだ。それから何日か過ぎ、ニャンイのおなかだんだんふくらんできた。ある日トイレでふんばってでてきたのは…。独特のファンタジー世界を創り出すペク・ヒナの胸がきゅんとあたたかくなる絵本。

『さかなくん』 しおたにまみこ/著 偕成社 2022.5 ¥1300

さかなくんは小学生。外へ出るときには、それなりの準備が必要。ゴムのずぼんにガラスのヘルメットをかぶり、ひれにはクリームをぬり、ゴムのくつ。さかなくんは学校も友だちと遊ぶのも好きだけど体育が大嫌い。さかなくんは歩くのも走るのも苦手。今日も一番嫌いなリレーで転んでしまい…。優しいタッチの画とおはなしに心が揺れる「たまごのはなし」の作者の新作絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『3かいなかしらか』 くすのきしげのり/さく 石井聖岳/え 東洋館出版社 2022.3 ¥1300

隣の席のたかのりくんは、ちょっとえらそうなところが鼻につくがぼくは言われっぱなし。算数の時も体育の時も図工の時もダメ出しされ、その度に「1かいなかしらか!」と思う。ある日の休み時間、たかのりくんの顔にボールがぶつかり、たかのりくんが大きな声で泣き出した。あやまろうとしない6年生にぼくのなかで何かはじけて…。学校がもっと好きになるシリーズの一冊。

<絵本-小学校中学年から>

『戦争をやめた人たち』 鈴木まもる/文・絵 あすなろ書房 2022.5 ¥1500

舞台は第一次世界大戦が始まった5か月後のクリスマスイブ。ドイツ軍とイギリス軍との最前線で疲れ果てざんごうで休んでいたイギリス兵たちの耳に、ドイツ語で「きよしこの夜」の歌声がきこえてくる。「こっちは歌おうか」とイギリス兵たちも歌いはじめ…。言葉だけの表面的な「戦争反対」ではなく、ぬくもりさえ感じる色鉛筆の画からも作者の思いが伝わる「今」読みたい絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『けんかのたね』 ラッセル・ホーバン/作 小宮由/訳 大野八生/絵 岩波書店 2022.2 ¥1300

くたくたになって家に帰ったお父さん。家に入ると、猫が、犬が、四人の子供達まで大騒ぎ。一人ひとり理由を聞いてみるものの「じぶんのせいじゃない」と言う。原因を押し付けられ部屋から追い出された猫プスの前に現れたのは「すべてわたしのせいです」というねずみ。追いつめられるねずみは…。子供達のけんかは…。あやまることの勇気を教えてくれる物語。

<読み物—小学校中学年から>

『海ヤカラ』 照屋年之/作 とろっち/絵 ポプラ社 2022.5 ¥1400

海の勇者を表す「海ヤカラ」に名の由来を持つ国吉ヤカラは、終戦後、アメリカ統治下の沖縄で元気に生活している10歳の男子。ある時ヤカラは隣のクラスの転校生、青い目のマギイから睨まれる。衝突で始まったマギイとの出会いだったが、彼を取り巻く複雑な問題を知ることになり…。勇気とユーモアと淡い恋心あふれる物語。お笑いコンビガレッジセールのゴリによる初小説。

『病院図書館の青と空』 令丈ヒロ子/著 講談社 2022.4 ¥1400

空花は読書が大好きな小学5年生の女の子。父の仕事の事情で転校するが、学校になじめず、体調を崩してしまう。入院した病院の患者向けの図書館で、空花はアオと名乗る女の子に出会った。アオに連れられてきたのは、大好きなあの本の世界の中。本当の世界と本の世界で、空花とアオはそれぞれ自分の居場所について葛藤する。悩みやつらさに立ち向かう二人の友情と成長の物語。

<読み物—小学校高学年から>

『リメイク!』 あさだりん/作 いつか/絵 フレーベル館 2022.4 ¥1400

小学6年生の由希は、親友の莉奈に推薦されて手芸クラブのクラブ長になる。毎年恒例のバザーにむけて、準備を始めるものの、新メンバーで5年生男子ひかるの発言がひっかかる。同級生の拓実や弟の亮太に「手芸クラブってすごい」って言わせてみせる。リメイクするのは布だけじゃない、家族だって…。思春期ならではの葛藤から成長していく姿をさわやかに描く物語。

<読み物—中学生から>

『ギソク陸上部』 山下白/原案 舟崎泉美/著 学研プラス 2022.3 ¥1200

走ることが大好きで、中学校で陸上部に入った成瀬颯斗。練習後、右足首に違和感を覚えた日から病院巡りが始まり、入院して手術をすることに。義足のリハビリを終え、学校に復帰した颯斗だが、周りの気遣いにイライラを募らせ、陸上部を退部。そんな中でも、変わらず声をかけてくる川村咲には、交通事故で片足を失った弟がいて…。パラ陸上を舞台にした青春小説。

『マスクと黒板』 濱野京子/著 講談社 2022.4 ¥1400

立花輝は目立つのが嫌いな中学2年生。長い休校が終わり、新年度が始まった日、昇降口で生徒たちを出迎えたのは作者不明ながら見事な黒板アート。白いマスク姿の分散登校で、クラスメートを覚えられないまま、短い夏休みに。文化祭も運動会も中止が決まる中、輝は黒板アートコンテストを思いつき…。誰もが記憶に新しい令和2年度の中学生たちの成長物語。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『学校はうたう』 杉本深由起/詩 松田奈那子/絵 あかね書房 2022.4 ¥1300

詩集で数多くの賞を受賞する作者が、学校や学校にある物になって気持ちを歌う詩集。子どもたちを見守る廊下や、ひそかな願いを持つ出席簿、ぐちをいいたいじゃぐちに子どもによりそうランドセル。色々な物の気持ちを想像する事で、自分とは違う他の人達の気持ちも思いやれるようになってほしいという願いが込められた詩の絵本。巻末にはそれぞれの詩に筆者の一言が添えられる。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『調べるって、おもしろい!!』 図書館振興財団/監修 岩崎書店編集部/編著 岩崎書店 2022.4 ¥3200

図書館振興財団が監修する小学生が楽しく学べる「調べる学習」の入門書。調べる学習の4つのステップ、テーマの見つけ方、図書館の利用法、取材方法、まとめ方・発表の仕方までをマンガや図解、具体例で丁寧に解説。取材時のマナーやお礼状など人の関わり方も紹介。各学年の「図書館を使った調べる学習コンクール」上位者の作品と調べ方も掲載。書き込める文獻リスト付き。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『ももちゃんのピアノ』 柴田昌平/文 阿部隆/絵 ポプラ社 2022.5 ¥1500

ピアノや音楽がももちゃんの生きる力となったのは、姉たちが通う「ひめゆり学園」で聞いたピアノの演奏がきっかけだった…。ドキュメンタリー映像作家・映画監督である筆者が、映画『ひめゆり』制作時の記録をもとに、戦中・戦後を中心に元ひめゆり学徒の半生を描いたノンフィクション。幸せな日常と大好きな家族を奪われても、壮絶な沖縄戦を強く生き抜く姿が心に残る。

<ノンフィクション—中学生から>

『あかちゃんといっしょ』 えがしらみちこ/作 白泉社 2022.3 ¥1200

絵本作家の著者が、発達心理学者の大日向雅美氏の監修のもと、自身の育児日記をもとに、あかちゃんの0～2歳の成長過程を描いた1冊。見開きに月齢ごとの様子が描かれ、「あかちゃんとあそぼう」には、その月齢に合うわらべうたや手遊びも紹介。あかちゃん時代を懐かしむのはもちろん、家庭科の保育領域や職場体験の事前学習の資料としても活用できる。

『高校生のための「探究」学習図鑑』 廣瀬志保/編著 学事出版 2022.4 ¥6000

新学習指導要領の全面実施により、高校生自身が主体的・協働的に課題解決する「探究的な学習」が新たに始まった。課題の設定からまとめまで、探究活動の中で想定される様々な場面を4章にわけて解説。第5章の実践事例やテーマ別課題例・実践例のヒントでは、多様な事例を紹介。生徒だけでなく、教師にも役立つ1冊。ワークシートがダウンロードできるQRコード付き。

<研究書>

『100年後も読み継がれる児童文学の書き方』 村山早紀/著 立東舎 2022.4 ¥1800

人気作家・村山早紀が、子どものための物語の書き方について、本を出す方法や文献の見つけ方から新人賞への応募まで、自身の創作活動を踏まえて解説。付録では2007年発表の自作の短編『トロイメライ』を実例として、この作品の演出や構成、創作の実際を詳細に紹介。立東舎webサイトに2021年1月～6月に掲載されたものに加筆修正し、書き下ろしを加えて書籍化。

『韓国絵本にみる絵本の言語文化』 尹惠貞(ユンヘジョン)/著 玉川大学出版部 2022.4 ¥4000

幼児期に日本の絵本に親しんだ著者による韓国の絵本についての研究論文。第1章では韓国の絵本の歴史を日英米と比較、第2～7章では昔話絵本から創作絵本まで日本語訳のある8作品について様々な視点から考察、第8章では日本のおはなし会での韓国絵本の受容を検証。巻末資料として「やまびこ文庫」おはなし会記録、韓国の主要書店における絵本のベストセラー掲載。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

